

たまだれ
No.14

奉祝

平成17年
御鎮座1450年

玉垂



御鎮座1450年記念・例祭の斎行（平成17年4月18日）

<http://www.okunijinja.jp/>



奉祝

平成十七年御鎮座千四百五拾年

古代の森から

花菖蒲が開花し初夏を感じる季節となつてまいりました。さて、御鎮座一四五〇年記念の慶年を迎えるにあたり、第一、二鳥居には奉祝の横断幕を掲げ、参道脇には「募財及び記念事業の告知看板」を設置いたしました。穏やかな天候で迎えました平成十七年の正月社頭では看板等をご覧になり、ご奉賛の申し込みをされる方が大勢ありましたことは感謝に堪えません。

四月十八日の記念例祭には神社本庁より田中恆清副総長が献幣使として参向され、矢田部正巳神社本庁総長、千家尊祐出雲大社宮司様をはじめ多くのご来賓のご参列を戴き、厳粛のうちに斎行されましたことは喜ばしい限りであります。また、重要無形民俗文化財であります「古式舞楽」も賑々しく奉奏され、小國神社振興会では奉祝幟と大型雪洞をご奉納戴き、さらに氏子地区各位には当社から奉祝記念の品をご配布させて頂きました。

本年一月より境内林から採取いたしました松皮の準備が整いましたので、五月二十四日に「舞殿及び舞樂舎お屋根替え及び修復工事」起工奉告祭を斎行いたしました。昨年十二月一日に小國神社崇敬奉賛会が結成されて半年が経過いたしましたがいよいよ第一期の記念事業が始まります。

この度、崇敬奉賛会の最高顧問には綿貫民輔前衆議院議長と地元から柳澤伯夫衆議院議員にご就任戴き、副会長には村松藤雄森町長をはじめ四氏にご就任戴きました。鈴木 覺会長とともに、当会の運営に力強いご教導を賜りますようお願い申し上げます。また募財の状況ですが、氏子各地区の総代を中心として活発に展開されており、自主的に推進委員会を設ける地区もあり、今後の活動が期待されます。小國神社の悠久の護持発展及び崇敬奉賛会の目的達成のため、氏子崇敬者各位のご理解と格別なご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。近況報告といたします。

御鎮座一四五〇年記念例祭の斎行

御鎮座一四五〇年を迎えた本年の例祭並びに諸祭典・神賑行事が四月十六日より十八日に亘り盛大裡に挙行されました。

十六日は、午前九時より詠歌を神前に奉る「猷詠祭」と、午後二時よりの氏子地区内で新たに出生転入された方を神前に奉告する「氏子入り奉告祭」を斎行いたしました。また、舞殿において国指定重要無形民俗文化財・十二段の古式舞楽の試楽が行われました。

十七日は午前十時より「前日祭」と、午後二時より「神幸祭」を斎行いたしました。神幸祭では神輿渡御に伴い、可愛らしい衣装をまとった子供達の稚児行列や勅使行列が行われ、本年の勅使役には大場孝侑様にご奉仕戴きました。日曜日ということもあり、参道には行列と参拝者にて大いに賑わいました。



献幣使・本社本庁 田中恆清副総長



修 祓

た。また、奉奏本番となる古式舞楽は、午前十一時より午後八時頃まで休憩を挟みつつ十二段の演目が舞われました。緑日にあたります十八日は午前十時より例祭が斎行され、記念となる本年は特に猷幣使として本社本庁副総長田中恆清様にご参向を仰ぎ、より厳肅な祭典となりました。また、本社本庁総長矢田部正巳様、出雲大社宮司千家尊祐様をはじめとするご来賓を含め、二五〇名の皆様にご参列を賜わりまして、更なるご神威の発揚が得られたことと深謝いたします。

この永い歲月、変わることなく行われてきた祭典は、日本人本来の根底に有る心の現われであり、多くの皆様方の篤い崇敬の形ともなっています。一四五〇年という佳節を新たな契機とし、今後も日本の伝統、文化を連綿と受け継ぐことの必要性を考え、必然であり、不易であることを再認識いたしました。



神幸祭 (4月17日)



勅使行列・大場孝侑勅使役

副会	顧	名
会	最高	誉
長	顧問	会長
村安	鈴鈴	塩竹
松間	木木	山田
百	三	富
藤合	鐵千	祐
雄子	男雄	伯民
	覺	昭
	実立	一
	裕	夫
		輔
		博

五月末までに役員にご就任された方々をご報告申し上げます。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。
(敬称略)

崇敬奉賛会日より



夜の拝殿・舞殿

花菖蒲の開花

一宮花菖蒲園では平成十四年より土中元素・微生物・PH等の土壌分析結果にもとづき、土壌改良・活性化の為、



一宮花菖蒲園

天然ミネラル・アミノ酸・ビタミン等のバランスを配慮した各種薬剤散布を実施してきました。年毎に少しずつではありますがありますが地方の回復もみられ、本年は五月二十二日よりの開園となり、春から夏への季節の移ろいに彩りを添えてくれています。アヤメ科アヤメ(アイリス：ギリシア語で虹の意)属は世界で二百種類ほどが知られています。その中でも英名ジャパニーズ・アイリスと呼ばれる日本の花菖蒲ほど変化に富み優雅な花はないとも言われます。“優しい心”、“忍耐”、“あなたを信じます”等の花言葉があり、古代の杜の清楚なたたずまいとともに、穏やかな一時をお過ごし下さい。

伊勢神宮

式年遷宮シンボルマーク

標語募集

伊勢神宮では来る平成二十五年に第六十二回式年遷宮がとりおこなわれます。

この大祭への理解と関心を深めていただき、『遷宮』を成功させるためにシンボルマークと標語(スローガン)を公募いたしております。

一三〇〇年前より連続と続いてきた古式ゆかしい日本の大祭に、国民の皆様のご協力とご賛同をお願いいたします。

●募集期間

平成十七年四月一日(金)より
平成十七年八月十五日(月)まで

☆当日消印有効

●応募先・問合せ先

〒一五一〇〇五三

東京都荏原区代々木一丁目二社本庁内

伊勢神宮式年遷宮広報本部

『シンボルマーク・標語募集』係

電話

〇三―三三三七九八〇―一(代表)

〇三―三三三七九八〇―二(直通)

FAX

〇三―三三三三九八二九九

伊勢神宮式年遷宮広報本部

公式ウェブサイト

<http://www.sengu.info/>

一宮さくら祭の実施

四月三日(日)、前日から心配されていた天候も好天にめぐまれ春暖の中で、一宮さくら祭が盛大に開催されました。宮川沿いの染井吉野をはじめ河津桜・滝桜・枝垂れ桜が開花し、門前駐車場の特設舞台では氏子内外の各種団体のご協力により歌や演奏が披露されました。多数の参拝者が来場され、中でも「平賀丈太郎とストーンミュージック」の生バンド演奏はプロさながらの演出で盛り上がりました。また、同会場では森町商工会による北海道産のホタテ貝がふるまわれ、香ばしい薫りに列ができました。

社務所前では枝垂れ桜の下に野点が設けられ、舞殿で奏でられる琴・尺八の美しい音色を聴きながらいただくお茶は風情があり格別なものでした。日が暮れるにつれ、門前ではライトアップの桜が輝きはじめ、お花見のご家族で終日賑わいました。



森町茶道愛好会による野点

古代の森シリーズ 14

神饌殿

神饌殿は毎日大神様にお供えする品々を調理する建物であります。御本殿東側にあり、回廊により社殿と結ばれております。

明治の復興の時、お屋根は柿葺きでありましたが、大正期のお屋根替えにより桧皮葺きに改めました。その後昭和三十七年に葺き替えを致しましたが、復興より百有余年の歳月を経て、腐朽が著しく、平成九年に全面改築をし現在の姿となりました。

真名井より清水を汲み、大神様に捧げる神饌を調理することは勿論ですが、当社では古式神酒(濁酒)を古伝のまに醸す醸造場所でもあります。



神饌殿(しんせんでん)

まつり歳時記

六月〜十月

六月 水無月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 一日 花菖蒲園園奉呈祭 (午前九時)
- 四日 花菖蒲観賞祭 (午前十時半)
- 五日 花しょうぶまつり (午前十時半)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 九日 甲子祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十一日 御田植祭 (午前九時)
- 三十日 夏越の大祓式 (午後三時)

七月 文月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 三十日 境内地譲渡記念祭 (午前八時)
- 三十一日 愛宕神社例祭 (午前九時)

八月 葉月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 八日 甲子祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)

九月 長月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十三日 秋季皇霊祭遙拝式 (午前九時)
- 二十五日 御柱祭 (午前十時半)
- 二十五日 敬老祭安心祭 (午前十時半)

十月 神無月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 七日 甲子祭 (午前九時)
- 八日 白鬚神社例祭 (午後二時)
- 十七日 神嘗祭当日祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前十時)
- 十八日 福神像頒布式 (午前十時)



笹百合 (ささゆり)

茅の輪神事

「夏越の大祓」のご案内

六月三十日(木)午後三時より夏越の大祓式が斎行されます。夏越の大祓とは、心身についた罪や穢・災厄を祓うのもともより、梅雨の時期に多い流行病や疫病にかかることなく、暑い夏を健康で過ごせますようにと古来より行われてきた神事です。

当日は、社務所前の祓所にて神職が大祓詞を奏上し、各々手にした切麻(紙と麻を小さく切ったもの)にて自ら身を清めます。更に大麻にて、神職・参列者・人形・天地一切を祓い清め、



茅の輪神事

その後拝殿前にて茅の輪くぐりを行います。

くぐり方は、茅の輪の手前で「蘇民将来」と三回唱え左方向にくぐります。次に、同じように詞を唱え右方向にくぐります。次も同じように詞を唱え左方向にくぐります。(左右左と8の字を書くように三回くぐる)

この大祓式には、どなたでもお申し込み及びご参列が出来ますので、ご希望の方は当社までお問い合わせ下さい。皆様ご一緒にお祓いをし、暑い夏を乗り切りましょう。

小國神社社務所 大祓係
電話 ○五三八(八九) 七三〇二



茅の輪御守 一初穂料600円-

※「ご家庭玄関口にお祀りし『蘇民将来』(疫病除けの言葉)と三回唱えます」



「秋の写真コンテスト」開催



毎年、「秋」という限られたテーマの中、様々な作品をお寄せいただいております写真コンテストが四回目を迎えます。

応募作品は昨年同様、本年の紅葉・もみじまつりの風景全般になります。七五三詣りなどのスナップ写真

真も対象になりますのでお気軽にご応募下さい。応募作品は四切・ワイド四切で裏面に指定の応募票を必ず貼付して写真コンテスト係までお送り下さい。尚、応募チラシは十月上旬に神社と各カメラ店で配布いたします。



平成16年 入選 < 落葉の花・木下 安雄氏 >

最優秀賞 (1名)	賞金・賞状・富士フィルム賞 静岡新聞社静岡放送賞
優秀賞 (2名)	小國神社宮司賞・賞金・賞状 富士フィルム賞
特別賞 (1名)	賞金・賞状・富士フィルム賞 中日新聞東海本社賞
入選 (10名)	賞状・副賞（一品） 富士フィルム賞

締切	12月25日必着
審査	写真コンテスト実行委員会 富士フィルムイメージング(株)
発表	平成18年2月中旬
※詳しくは、写真コンテスト係までお問い合わせ下さい。	

命 名

平成十七年二月一日

（平成十七年四月三十日）

古田 凌也	磐田市	青木 天音	菊川市
牧野愛依実	浜北市	諸井 莉胡	袋井市
松島みなみ	森 町	近藤 麻央	焼津市
安間 みゆ	袋井市	民谷 春佳	袋井市
大城 昂輝	浜北市	小林美南帆	東京都
曾根 依真	袋井市	横山 聡汰	菊川市
竹田 晴貴	浜北市		
木村 俊介	菊川市		
廣野 陽太	浜松市		
宮原 萌	浜松市		
畑中 七星	森 町		
伊藤 将司	磐田市		
鈴木 結衣	袋井市		
平山 愛理	袋井市		

平野 佑羽	菊川市
板倉宗一郎	東京都
大林 和也	菊川市
宮木 雅治	浜松市
北谷 楓佳	森 町
相羽 泰河	森 町
望月 愛梨	森 町
渡辺 一成	袋井市

○当社では、お子様の命名を申し受けております。

新職員抱負



巫女 松下 千恵

入社して早二ヶ月が経ちました。伝統ある小國神社に奉職できましたことに、心より感謝いたしております。

入社して早二ヶ月が経ちました。伝統ある小國神社に奉職できましたことに、心より感謝いたしております。巫女としても、社会人としても、まだまだ初心者で、ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、精一杯努力していきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



えびね

「小國の杜・点描」

雪下（ゆぎのした）

ユキノシタ科ユキノシタ属 半常緑多年草
 虎耳草・金銀草・鏡草・蝶々草・井戸草・ペコノシタ・ネコノミミ等の多くの別称・方言があり、観賞を兼ね家庭常備薬草として親しまれてきました。“子供のいる家のユキノシタは満足に育たない”とさえいわれ、庭のない町中ではアワビやサザエの殻に植えて育てたそうです。“深い愛情“の花言葉があり、人字草・大文字草も同じ仲間になります。

萼紫陽花（がくあじさい）

ユキノシタ科アジサイ属 落葉低木
 アジサイはガクアジサイを母種として生まれた園芸種で、ツバキとならば欧米



雪下（ゆぎのした）



萼紫陽花（がくあじさい）

で大いに栽培改良された日本植物の代表的なものです。集真藍（青い花が集まって咲く様子）・厚咲等からの和名といわれ、七変化・手鞠花とも呼ばれます。「安治佐為の八重咲く如く彌つ代に坐ませわが背子見つつ偲はむ」『万葉集』橘諸兄」とめでたい花として「寿歌」に詠まれています。



梔子（くちなし）

アケネ科クちなシ属 常緑低木
 静岡県伊豆半島が自生の東限とされ、実が熟しても自ら裂けることが無いことから命名といわれます。実は黄色染料やさんどん・餅・沢庵等の料理に利用され、甘い芳香を放つ花は袂に入れ香の代わりとしたり、ウエディングブーケや胸飾り・髪飾りに使われ”とても幸せ“の花言葉もうなずけます。

梔子（くちなし）



— 幸治 (Koji) —

氏子地区（円田）の出身で当社の「稚児舞楽」をご奉仕の経験もあります。大学在学中よりプロとして活動し、本格派のボーカリストとして今後のご活躍が期待されます。

編集後記

○六月三十日（木）午後三時より夏越（水無月）の大祓式が廣行されます。奉仕者ご参列の方々全員で内庭の「茅の輪」を三回くぐる神事です。是非ご参加いただき、無病息災をお祈りいたします。
 ○昨年の五月二十七日に当社では浅野温子語り舞台「日本神話への誘い」を実施いたしました。早一年となりましたが、今年も実施しますと問い合せがあります。本年は九月に愛知県熱田神宮をはじめ六神社で公演の予定とのことです。

表紙写真について

平成十七年四月十八日（月）午前十時廣行の御鎮座一四〇年記念・例祭の参進状況を撮影いたしました。神社本庁より献幣使が参向され、また三日間の例祭期間中は晴天に恵まれました。

平成十七年六月一日
 「玉垂」（たまだれ）第十四号
 題字揮毫 神社本廳前総長 工藤 伊豆
 発行 小國神社社務所
 郵便番号 四三七〇二二六
 住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
 電話番号 〇五三八（八九）七三〇二
 FAX 〇五三八（八九）七三六七
 印刷 (株)アザインフォイス エム・エス・シー